

日本映画衛星放送株式会社 第30回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成24年11月13日(火) 15時~16時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー東館15F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 9名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・川本三郎・坂井保之・鈴木嘉一・曾根和子・
田保橋淳・鳥居美砂・西 正
欠席委員(敬称略) : 石上三登志
放送事業者側出席者: 代表取締役社長 杉田成道
編成制作部部長 宮川朋之
編成制作部マネージャー 小川英洋
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

「時代劇専門チャンネル」1月編成、オリジナル本格時代劇第三弾
『鬼平外伝 正月四日の客』について

(2) 報告事項

「日本映画専門チャンネル」12月編成『天使の恍惚』を R-15 作品として
放送することについて

5. 議事に先立ち、当社社長より

去る11月6日に、番組審議委員の石上三登志先生がお亡くなりになられた。
ご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表する。

6. 議題(1) 概要

時代劇をめぐる状況は依然厳しい。現在 NHK 大河ドラマ以外の時代劇レギュラー番組は殆どなく、京都の撮影スタッフは高齢化しつつあり、時代劇文化は一層の危機を迎えている。そうした中、「時代劇専門チャンネル」は、京都の松竹撮影所で、一昨年、昨年と続けてオリジナル本格時代劇『鬼平外伝』シリーズを制作し、今年もまた新たにシリーズ第3弾『鬼平外伝 正月四日の客』を制作した。本作品は11月にBSスカパー！で先行放送され、2013年1月に「時代劇専門チャンネル」で本放送となる。今回の番組審議会では、『鬼平外伝 正月四日の客』についてご意見を頂戴し、オリジナル時代劇の更なる向上を目指す。

7. 議題(1) 審議内容

- ・池波正太郎の世界をとて気持ち良く見た。この作品のターゲットはシニア層だから、そういう人達がくつろいで見るのだったら、このテンポが良い。
- ・地味な作品だが、渋い映画を見ているような感じがする。池波正太郎作品らしく、食べ物の使い方も上手く出来ていた。
- ・大変面白く見た。時代劇という枠で括りきれない心に残る感動作品。一般論としての時代劇をブレイクスルーする可能性がある。映像的な感動もひとしおだった。
- ・映画を見るような感覚で楽しみ、時代劇スターの松平健さんの存在感が印象に残った。何かもうひとつエッセンスを加味すれば、更に広い世代にアピール出来ると思う。美術的にもとても良かったが、お地蔵様の顔が現代的で違和感があった。
- ・『鬼平犯科帳』の原作小説は全てドラマ化された。しかし、『鬼平外伝』は鬼平がいなくても十分成立すると思う。非常に見応えがあった。時代劇専門チャンネルがオリジナルドラマを制作し続けることは、大事な伝統的文化を支えていくこと。是非続けて欲しい。
- ・とても良い作品。この番組があることでチャンネルの存在感が際立ち、他チャンネルとの差別化が図れるし、『鬼平犯科帳』本編との相乗効果も生まれる。一方、関連番組もあり、ドラマを盛り上げようとするチャンネルの姿勢が感じられて良かった。
- ・CS放送は、コンテンツを購入して放送しているだけのチャンネルが多く、オリジナルドラマ番組は珍しく、貴重だ。こうしたチャンネルが生き残るのだと思う。
- ・フィルム撮影だが、スーパー16なので、35mmで撮影した映像に比べると若干浅いが、映像的には成功している。また、松平健さんが気合いを入れて演技をしていることに感心した。ただ、作品は地味。今後は池波原作以外の可能性も探すべきだ。

< 事業者回答 >

- ・地蔵菩薩像は、監督のイメージに合わせてこのドラマ用に制作した。しかし、伝統的なデザインで、京都の寺にも同様のデザインの古い地蔵菩薩像が確かにあった。美術に関しては、例えばねずみ大根にしても、本来は真冬の野菜だが、それを撮影用に3月から育て、9月に撮影した。それほど周到に作品の準備をした。
- ・関連番組については、蕎麦職人を演じる柄本明さんに信州に行っていただき、信州真田と、その土地の蕎麦の魅力を伝える番組を制作した。番組では他に、江戸時代の屋台を復元して、松平健さんにその蕎麦を召し上がっていただいたりしている。
- ・「時代劇専門チャンネル」で人気が高い『鬼平犯科帳』に紐づく、“本物の時代劇”を京都で作れたことは意味深く、これからも『鬼平外伝』シリーズは提供していきたい。オリジナルドラマを作ることは、購入した番組をパッケージとして見やすく放送していく面と、オリジナル時代劇を制作することでチャンネルが時代劇文化を牽引していく面と、その二つが視聴者とコミットする大きな力になると考えている。

8．報告事項

今年 10 月 17 日に映画監督の若松孝二さんが亡くなりました。追悼企画として『天使の恍惚』(1972 年 若松プロ = 日本 ATG 作品)を、「日本映画専門チャンネル」の 12 月「ATG アーカイブ」枠で編成する。

この映画は、映倫 成人映画 指定作品であるが、性表現や暴力表現に対する公開当時の感覚と現在の感覚は大きく変化した。これまでも「日本映画専門チャンネル」では、公開時点で 成人映画 指定された映画について当社審査を経て、放送してきた実績がある。今回改めて『天使の恍惚』を審査したところ、放送は可能だが、性表現や暴力表現において配慮すべき点があり、当社では R-15 という扱いにして、ペアレンタルロックをかけて放送することにした。

9．その他参考事項：次回番組審議委員会は、2013 年 1 月 8 日開催。

(以上)